

令和5年度卒業時調査結果を踏まえた各部署における取組事項（R6. 9. 25）

（1）生活創造学科栄養士コース

課 題	本年度の取組事項
<p>① 6項目の学習成果において、「主体性・自立性・実行力」のポイント（5段階評価の平均値）が低い。</p> <p>② 入学の段階で学習に必要な基礎学力が身につけていない学生が一定数存在しており、対策を講じる必要がある。</p>	<p>① 1年次後期に開講するプレミナールにおいて、コメ料理のコンテストを実施する。このコンテストでは、料理の考案から試作、調理、本番のプレゼンテーションまでを自主的に取り組み、主体性や自立性の習得と自己肯定感の向上を目指す。</p> <p>② 令和6年度入学生より、生物や科学について学ぶ「栄養士の科学」に加え、栄養士の学びに必要な計算について学ぶ「基礎数理」や、読み書きについて学ぶ「国語表現法」を開講した。</p>

（2）生活創造学科ビジネス・医療秘書コース

課 題	本年度の取組事項
<p>① 卒業時調査の短大生活全般についての意見・感想では、他の項目に比べて「本学への入学を後輩や知人に勧めたいか」の評価が低いので、この評価を高めて志願者増につなげる必要がある。</p> <p>② 入学時には多くの学生が「在学中にできるだけ多くの資格や検定に挑戦したい」と言うが、卒業時の結果を見るとやや物足りなさを感じる。資格取得や検定試験挑戦の意欲が卒業時まで継続するような支援が必要である。</p>	<p>① 令和7年度からスタートする新コースのカリキュラム等の具体化を図り、魅力あるカリキュラム、魅力あるコースを打ち出していく。</p> <p>② 今年度から新設された「学修奨励奨学金」の周知徹底を図り、検定上位級への挑戦者を増やしていく。</p>

（3）幼児教育学科

課 題	本年度の取組事項
<p>① 学習成果の到達度について、教員の評価より学生の自己評価が低い傾向にある。</p>	<p>① 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマポリシー）に示された学習成果の到達目標を具体化し、それらの力を身に付けられるように教育指導を行う。具体的には、授業で身に付けることができる力を例示し、学習成果と対応させて説明し、伝えることとする。</p>

（4）事務局

課 題	本年度の取組事項
<p>① 事務局の対応や助言について、「不満・やや不満」が一定数ある。また、「良い職員に恵まれた」との問いに関して、やや低い結果が見られた。</p> <p>② 学食の営業時間やメニューに対する不満が見られた。</p> <p>③ 学内の施設・設備に対する要望が上げられている。</p>	<p>① 「学生のために」から「学生の立場に立った」対応力が求められており、このことを意識しながら業務に当たる。</p> <p>② このことについては、学生代表との対面での聞き取りを行い、改善に向けて努力する。</p> <p>③ このことについては、予算の問題もあるが、その都度対応していく。</p>